

ACOP 勉強会レポート

白山 祐子

私たちは、2014年3月東京にて行われたビジネスパーソン向けプロジェクト「ロジカルに聴くとチームが変わる～どこからそう思う？そこからどう思う？～」に参加した受講者で、2日という短い時間でしたがアートが持つ力を実感しました。この体験を忘れず、学んだことをブラッシュアップする場を持つということ、勉強会をはじめました。

勉強会は、純粹に対話型鑑賞を楽しむ場、ナビゲイターの練習をする場、ACOP 実践に関する困りごとや知恵共有の場として2か月に1回のペースで行っています。今回は、2014年7月27日に行った勉強会について報告させていただきます。参加者は7名で3時間行いました。

OHカードを使ったチェックインを行い、気になったカードを1枚取り「なぜ気になったのか」「今日の勉強会への期待」を皆で共有してからスタートしました。

まずは対話型鑑賞を鑑賞者として楽しもうという意図で、参加者のひとりがナビゲイターとなり、1作品目の鑑賞を行いました。ジョン・エヴァレット・ミレー《盲目の少女（盲目の娘）》を30分鑑賞し、その後ナビゲイターへのフィードバックを兼ねて、全員で振り返りを行いました。

ナビゲイターからは「いろんな意見が出た中で、途中からひとりの人物に焦点を絞る提案を試みたけれども、それが果たしてよかったのかわからなかった」、鑑賞者からは「途中、人物に注目させたことで鑑賞者の視線は絞られたけどマンネリ感を感じた。その時点でまだ話題に挙がっていなかった周囲の風景などへ視点を持っていく投げかけをしたあとでまた人物に視点を戻すような流れだったら、また人物の鑑賞が深まったかもしれない」「途中でこの作品のタイトルを伝えていたらどうなっていただろう」などの意見がありました。

次に、ナビゲイションのトレーニングを目的として「ひとりACOP」と「リレーACOP」という試みをしました。鑑賞作品はいずれもイリヤ・レーピン《思いがけなく》で行いました。

「ひとりACOP」は、作品をひとりでみて、みえたことや感じたことを付箋にどんどん書きだし、次に書き出した内容がfact（客観的事実）なのかtruth（主観的解釈）なのかを自分なりに判断し、付箋にしるしをつけていきます。そして、似た内容の付箋をグループ化し、着目テーマを整理します。

ひとりで行うことに最初は戸惑いながらも、全くfactが見当たらないtruthの付箋に気づいたり、factとtruthをいくつも見ていると新たなtruthを発見したりと、可視化することで新たな発見があったようでした。

続いてリレー形式でナビゲイターをする「リレーACOP」です。30分の鑑賞時間を、あたかもひとりのナビゲイターが進めているかのように、3人のナビゲイター役が10分間隔で代わる代わるナビゲイトするので”リレー”と名付けました。もともとナビゲイターは、鑑賞をリードする役割であるとともに鑑賞者として参加する場面もあるので、違和感なく実施できました。

最後にひとり ACOP、リレーACOP の振り返りを行いました。

ひとり ACOP では、「自分の fact と truth はもしかしたら他の人と違うのではないかと思った。他者はどう fact と truth を捉えているのか興味がわいた」「ひとりだと見え方の幅が広がらない。やはりみんなと一緒に鑑賞するほうが広がる」という意見がありました。

リレーACOP では、鑑賞者から「ナビゲイターの個性の違いが出て、違う鑑賞点を投げかけてくれたので面白かった」、ナビゲイター役からは「交代するところが難しいのではないかと思ったけど意外と違和感なかった」「ひとり ACOP をやってからナビゲイターをやったので、鑑賞者の意見がすんなり入ってきて、こういう見方もあるんだなと自然と受容できるかかわりができた」「よくわからなくなったら fact に戻ればいいのかというのがよくわかった」という意見がありました。

振り返りは、予定時間を超えて盛り上がり、その後の懇親会でも意見交換が活発に行われました。参加した皆が、まだまだ ACOP についての理解や経験が少ない、だから ACOP に触れる機会を増やしたいと思っていることをあらためて感じました。今後も体験と学びの場としての勉強会は継続していきたいと思います。



以上